



フレイベル自傳 (第二回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

倉橋 惣三 譯

六、幼時の價值

茲で私は一寸記述の筆を休めて少年時代の事に就て更に長く書くべきか否かを考へて見ませう。

さりながら此頃は私の生命の木に若芽がほぐれ始めて來たのです。私の心が其の回轉期を見出したのです。そして私の内的生活は此頃始めて目を醒したのであります。

されば、若し私が幼き少年期の正確なる記述を成し得るとしたならば、私の生活に對する正しき理解と、人としての働きに對して缺くべからざる幫助を得るでありませう。

斯ういふ譯で私は私の此の時代の事に就て特に

長く書かんことを敢てするのであります、後年の事を省略しても此の時代のことは詳記したいのであります。

私は自分の生涯を批判したり記述したりしてゐる内に一般世間から平凡又は不必要として排斥せられてゐるものが、自分の眼からは反つて一番重要なものであるといふ事が分つて來ました。教育に就ても丁度これと同じ事が言はれるのであります。

私の管見を以てすれば、幼稚な基本的な事柄を輕々に看過するのは甚だ宜しくない事だと信じます。併し餘り瑣事にばかりかゝつらつてゐて全幅

を一瞥し其の狙所を看取る事が出来ない、讀者は遂に忍耐力を疲らして了ふといふ事を私は知つて居ります。それ故私は閣下（註曰、フレーザー）が此書簡を宛たるマイニンゲン大公をさす）が先づ兎も角これをお読み下さる時、長きに過ぎ或は煩瑣に過ぎると思召された箇所があつたならば、ズン／＼お通り過ぎ下さる様に願つて置きます、

七、二つの讚美歌

却説、私は父が其地方の牧師をしてゐた爲めに規定外れに女學校の入學を許可せられました。同じく父のお蔭で私は同年輩の生徒の中に編入されず、教師と關係の深い生徒の中に入れられませんでした。それで私は大きな女生徒の中に割込んだのです。

私は自分に出来る範圍で女生徒と課業を共にしました。皆に附隨つらひいて一緒に行つて行ける事は二つありました。先づ私は彼等と共に聖書を讀む事が出来ました。それから前述の下級生等のする様

な經句の暗誦の代りに、私は次の日曜日の勤行のために讚美歌を一行宛學ぶのでありました。

是等の讚美歌の中二つは私の少年期の初に於ける陰鬱な暗澹たる黎明を二つの星の如くに光りました。それは「めさめよ、わが魂」と「神の子たるは難きかな」でありました。是等の讚美歌は私に取つては生命の讚美歌でありました、私は私の小さい生命が其處に現はされてゐるのを發見しました。

この讚美歌は深く私の心に止つてゐて後にはこの讚美歌が私の心靈に運び來つた使命の中に氣力と援助とを發見しました。

八、父の教へ

私の父の家の生活は學校のこの訓練とはよく調和しました。祈禱は日曜日には二度づゝ行はれましたが私は何時も缺かさず出席しなければなりませんでした。

私は非常に注意して父の説教を聴きました。それは父が自身の位置、職業、生活等に關して種々

のほのめかしを其説教の中に交へて居る様に思はれたからであります。

今から考へて見ますと其頃私が法服所に入込んで勤行を聴いてゐたのは、甚だ利益たぐになつたやうに思はれます、何故ならば靜に法服所に入り込んで會衆から離れて居ると、自然注意力が散漫しなかつたからであります。

私は既に父が舊希臘派の神學を奉じてゐた事を記しました。それがため父が讚美歌や説教に用ゐる國語は神秘的な象徴的なものでした。——私は父の演説を多くの意味に於て「石の國語」ストーンラングエージと名付けませう。といふのは其言語を通してその中に含まるゝ意味を了解するには非常に骨が折れたからであります。

けれども、もつと成長してから、全力を盡しても尙且達し得られない様なことが、或る單純な思慮深き、若き心の快活な、覺めたる生氣を與ふる様な力に依つて、又力を盡して總ての物の原因と

關係を尋ね求むる熱心な若き心に依つて屢々完成せらるゝものであります。

但し斯る心掛の若き人々さへも珠玉にもかへ難き或物を得るには長い間の考究と調査と反省とを経なければなりません。私が夢中になつて求めてゐたものを發見し得た時には實に溢るゝばかりの歡喜を覺えるのであります。

私が成人してゐた時分殊に私が少年期を過してゐた時分の四圍の事情は私の官能を早くから激甚に働かせる様にしました、それ故官能の快樂といふことは最初から私の緻密な思索の題目でありました。

少年期の初期に於ける分解的な究問的な習慣の結果は甚だ明晰で且つ決定的でありました、そして之を言語に現すことが出来ないにしても心の中にはしつかりと決められてゐたのであります。

私は刻々に移行行く官能の快樂は吾人に永久的な飽滿的な影響を與へるものでないから餘り夢中

になつて之を追求すべきものでないといふ事を悟

ひます。

りました。究問的な考究、心と外界の比較及び心と外界の仲介物の研究、以上三者を私は目下未來の根柢として居りますが丁度それと同じ様にこの確信は當時私の全人格を決定しました。

不斷の自己靜觀、自己解剖及び自己教育は極く最初から私の基礎的特性でありました。そしてこれは極く最近まで續いて來たのであります。

催促されずに自分の教育に身を入れる様に人類の快樂と能力とを向上し鼓舞し覺醒し強固ならしむることが常に私の教育事業の基礎をなす所の主義でありました。

私は地獄に行くべき運命を擔つてゐる者でないと充分満足し得る様に自ら信じた時私の喜びは非常でありました。

私は幼くして希臘派神學の石の様な難澁な教義を解釋し去る事が出來ました。これには次に述べる二つの事柄が多分原因になつてゐるだらうと思

第一に私は習つた事をよく覺える爲めに、父が

自宅ですてくれる授業を聽く習慣だつたので、是等の教義を幾度も幾度も聞きまじし、其他種々の場合に於て度々是等の教義を耳にしましたため、私の心は殆ど無自覺的に是等に對して或る解釋を下してゐたのです。

第二に、私は屢々父が牧師の職責を嚴重に履行して行く様子を默視してゐましたのと、それから又、父の意見を聞き又慰言を得るために訪ねて來た人が、父と話してゐるのを屢々傍に在つて聽いてゐたからであります。

私は斯くて絶えず外的生活から内的生活に引附けられてくゐるのでした。

九、性の疑問

何等の解釋をも加へられない裸のまゝの人生と、其上に加えらるゝ父の解釋とが自然私の頭の中へ入つて來ました。斯くて物象と言語、行爲と象徴

とは極く明瞭な關係を以て私に理解されました。

私は五千の生靈より成る此の村に於て、眞摯な嚴格な牧師の監督を受けつゝ、人々が身體を粉にして重荷づけられた、疲憊した不調和な生活を送つておるのを目撃しました。中にも、結婚問題、兩性問題は殊に屢々父からの重々しい非難攻撃の目標とせられました。

私は父が此事に就て話すのを聞いて是等の問題は人類の行爲の極く重く重くしい難澁な部分をなすものであるといふことを知りました。そして私は幼い無邪氣な頭で、すべての生物の中で人類のみがひとり斯く性を分たれてゐて、兎角その行歩を難くさせられてゐるといふことを深く悲しみました。

私は自分の智と情とを満足させる爲めに、如何しても此の難問を會得する必要があると切に感じました。而かもその方法としては何等の發見する所もありませんでした。その頃の年輩や感化閱歷

で如何してこの難問が解けるものですか。

けれども私の長兄が（他の兄弟と同じ様に家を離れてゐました）歸着して一寸の間逗留したことがありました。或日私が榛樹の花の紫色の花莖を見て悦んで居りました時に、長兄は私に植物にも同じ兩性の分れがあるといふことを知らせてくれたのであります。私はやつと氣を休めました。

私はそれまで私を苦しめてゐたものは、すべての自然界を統一するところの制度であつて、この制度には諸多の馱せる美しき花も忍従しつゝあるのであるといふことを認知しました。

それから後は人間と自然、人の生命と自然の生命とは私の心の内に緊密に結び付けられました。而して私は榛樹の花を私のために自然の神殿を開いてきたる天使の様に思ひます。

私は今や求めてゐたものを得ました。教會に自然の殿堂が加はり、敬虔な基教的生活に自然の生活が加はり、人間生活の激し易い葛藤に植物の生

活の靜平な平和が加はりました。それから後といふものは私は丁度生の迷宮を通して私を導いてくれるアリアドネの導線を持つてゐた様な者です。

十、人生と自然

三十年に餘る自然との親近な交誼は（尤もこれには屢々間斷があり、時には長い間中絶してゐたこともありますが）私に植物殊に樹木は人生の鏡、否寧ろ其の最上の靈的關係に於て人生の象徴であるといふことを教へてくれました。而して私は私達が智慧の木、善惡の木のことを聖書の中で讀む時人の靈から溢れ出づるいとも博大にして深刻なる豫感の一つが、私達の前にあるといふことを思ひます。

自然の全體は私達に善を惡から區別するやうに教へて居ります。結晶體や岩石の世界でさへ——植木や花の世界のやうに鮮明に靜平に明瞭に表示的にではありませぬけれども。

榛樹はしばきの花が私にアリアドネの導線を與へたこと

はもう申しました。

かくて多くの事柄が漸次明瞭に分るやうになつて來ました。例へば天國に在す私達の最初の父母の若き生涯や行動なども分つて來まして、多くの事柄もこれに結び付けて考へられました。

十一、三つの影響の第一

私が十才になるまで私の内の生活に影響を及ぼしてゐた三つの事柄があります。それを私は私的外的生活の敘述を再び始める前に茲に記してみたいと思ひます。

當時の人々の愚劣、迷信、無智はそれまで彼等が行つて來た通りにこの世界は間もなく終つて了ふものであるといふ臆斷を敢てして居ました。併しながら私の心は依然としていとも靜平に保たれました。何故ならば私は適確に決定的に次の様に自分で論究して居りましたから——人類はこの世に満足してゐられない程の完全な域に達するまでは、現世から絶滅することもなければ現世そのも

のが滅落することもない。地球即ち狹義に於ける自然は人間が精髓に達する完き洞察力を得るまでは、尙のこと絶滅する憂ひはない。

この意見は私の生きてある間種々形を變へては戻つて來るのであります。而して平和、剛毅、忍耐、勇氣に對するこの意見の影響に私は非常に負ふ所が多いのであります。

十一、三つの影響の第二

この時代の終り頃の前にお話した事のある一番年上の兄（註曰、其の名をクリストフ、フレーベルといふ。エナ大學に遊べり）は大學に在つて神學を研究して居りました。

哲學的の批評は當時基督教會の教義をさへ解釋しやうと掛つて來たのであります。それ故に屢々父子で其の所説を異にするといふ様な事は大して驚くべきことではありませんでした。

私は或日父と此の最年長の兄とが宗教及び教會の事に就て激しい論争をしたのを覚えて居ります

父は激して兄の論點の承認を極端に拒みました。

兄は柔らかな性質でしたが、興奮して眞赤になりました。而して兄も亦自分で眞理と認めたものを如何しても棄てることは出来ませんでした。私は他の多くの場合と同じく、この時も不注意な傍聴者として其の場に居合せました。而して今日尙父子が面と面とを衝き合せて意見を上下してゐる有様を眼に浮べることが出來ます。

私はこの論議の題目の幾分かを略ぼ理解し得た様に思ひました。私は兄の説に與すべきである様に感じました。けれども同時に父の意見にも相互理解の可能性を誘導すべき何物か含まれてゐる様に見えました。

私は臆氣ながら、諸有幻影おぼろには人々をして死力を盡くしてしつかり固着させる所の現實の半面のあることを疾くに感じて居りました。この確信は私が成長するに連れて漸次強くなつて參りました而して何時でも二人の人が眞理のために論争して

ゐるのを聞いた時には、私は眞理は大抵兩方の側から學ばれるものであるといふことを悟りました。それ故に私は決して片方かたかたに與することを好みませんでした。これは私に取つては幸福な事でありました。

十三、三つの影響の第三

それから三ツ私の品性の色彩を形成るに際立つた影響をなした所の少年時代の他の經驗は以下に記す所のものであります。

我が國教の信奉者に向つてある要求が屢々繰返されてなされました。即ちキリストの勤行を始めるとか、各人の生活の上にキリストを表示するとか、エスに従ふとかいふ様なことであります。そして、是等の教誡は他人の教父として、將た又身親ら基敎的生活を送る生活者としての私の父の熱心から、數限りもなく屢々私にも齎あづかされました。

私は此の要求を大切のことだとは思ひました。

併し私はそれが随分六かしいことでまた私には不可能のこの様に思はれました。

私が茲に認知した様に思ふ所の生得の矛盾は私を大なる鬱憂に投げ入れました。併しながら私は遂に人間の性質は若し適當な方法を取りさへするならば其の精純に於てエスの生涯を生活し、又その生活を世界に表示することを不可能としないものであるといふ祝福すべき確信に到達しました。

屢々私の心に起つて來ては今でも私を少年時代の場景や境遇の中に連れ戻つてくれる所のこの思想は多分この時代の最後の精神上の感化でありましたらう。そこでこの時代の心的開展の敘述はこの邊で歇めるのが適當でありませう。この思想は後に至つて私の全生涯の頼みとするものとなりました。

十四、家庭内の不快

私のお話した私の子供らしい内的生活から類推

して私の外的生活までも幸福で平和なものであつたと思はれるかも知れませんが、けれども斯る臆斷は正しくはないのであります。

全體常に最も難澁にして最も劃然たる矛盾を表し且つこれを抱合させるのが私の運命であつたかの様に思はれます。

私の外的生活は私の内的生活とは實際非常な相違を示して居りました。私は母なくして成人となりました。私の體育は怠られて居りました。而してその結果私は幾多の悪い習癖を得ました。私は常に何事をかなしつゝある事を好みました。けれども不器用な私は材料や時間や場所の選擇を誤つた爲めに屢々兩親の厳しい不興を蒙りました。私は感じ易い性質でありましたから、これを兩親よりも鋭く永久的に感じました。多くの場合實質よりも外形で叱られるのであると感じた時殊に爾でありました。而して私は内心に於て何は兎もあれ實質に於て私の行爲はすつかり間違つてはゐな

いが而かも尙幾分非難に値する所があるやうだといふ觀察をして居りました。私に言はせますと、私の行ひの動機と推定せられた動機は事實に於て私を働かせてはゐなかつたのであります。見損はれて居るといふ自覺が、私を前に信せられてゐた所のもの、即ち眞個に仕様のない横着な子として了ひました。罰せられるのを恐れて私は些とも害の無い行動をさへ隠し立てました。而して私が尋問された時には私は虚偽の答をいたしました。

約言すれば私は悪者として決められて了つたのです。而して私に對する非難の當否を調査する暇のない父は、是等の事實を單に告げられた通りに記憶して居りました。私の疎略にされた幼時は他の嘲笑を呼びました。繼母と遊んで居る時などにも、何でも遣り損ひになつたことは繼母に言はせると皆常に私がその原因でありました。

兩親の心が漸次私から離れて行くに従つて私の方でも私の生活は漸次兩親から掛け離れて行きま

した。而して私は私の心的傾向が充分健全でなかつたならば、両親よりも尙もつと私を害うたかも知れない人々の群れに向つて放擲せられました。私はこの不幸な状態から逃れたいと願ひました。而して私は兄達が家から離れてゐるのを運の好いことであると思ひました。

丁度この悼ましい時に當つて私の最長兄が歸省いたしました、長兄は私には救ひの天使の様な思はれました。何故ならば長兄は缺點多き私から比較的優良な性質を認めて虐待さるゝ私を保護してくれたからであります。長兄は少しの間逗留して又行つて了りました。けれども私は其時以來私の靈は内心の深みに於て兄の靈に結び付けられてゐるのを感じました。而して長兄の死後長兄に對する私のこの愛は實際私の生涯の全程と化つて行きました。

恵みは遂に私の上に齎らされました。而してその恵みといふのは私の熱望してゐた所の父の家を

去るといふことでありました。若しこの時父の家を去らなかつたならば私の外的生活と内蔵生活との間に横はる著しき矛盾は只管私を囚へやうとして始めた悪い心の傾向に當然進展して行つたに違ひありません。

今までの生活とは全然異つた新生活が私の前に開けました。私は此の時十歳九ヶ月でありました。

十五、叔父の家へ

私の母方の叔父が此の年に私の家を訪ねました。叔父は柔和な情愛の深い人でありました。叔父が私の家へ來たことは私に最も快い印象を與へました。

この叔父は世馴れた人でしたから私を圍繞してゐる好ましくない感化に氣が附いたのでせう。叔父が歸つてから間もなく叔父は書面を以つて父に私を完く自分の手に任して貰ひたいと願ひました。父は早速同意いたしました。而して一七九二

年の終頃に私は叔父の許に行きました。

叔父は早くから妻と子を亡くして了ひました、

而して只養母ばかりが叔父と一緒に家に住つて居りました。父の家では嚴酷が極端に勢力を擅にしました。父の家ではそれと反對に溫和と親切が時めいて居りました。父の家には在つては私は不信用と争つて居りました。父の家では私は信用されました。父の家では私は抑制の下に居りましたが、叔父の家では私は自由を得ました。これまでは私は私と同

年輩位の子供達と一緒にゐたことは滅多にありませんでしたけれども、叔父の家へ來てからは四十人の學校友達を得ました。といふのは私は町の學校の上級に入學したからであります。

小さなスタッドイルムの町は廣い谷の様な所の清澄な小川の土手の上にありました。

叔父の家には附屬の庭園がありました、私は自由によつてこの庭園へ行くことが出來ました。又私は時間通りにキチント歸宅するといふ嚴格な規則を守

りさへするならば、近所を自由に歩き廻ることも許されて居りました。

叔父の家に於て私は新らしい牛のエネルギーを息をも吐かずに吸ひ込みました。何故ならば以前は家に在つて屋外へ一步も踏み出すことを許されてゐなかつたのですが、今ではあらゆる場所が私の遊び場所となつたのであります。

私は靈の自由と身體の力とを得ました。

十六、楽しい生活

私達を教へてゐた僧侶は決して私達の遊戲に干渉しませんでした。私達は或る定つた遊び場で何時も大層面白く元氣よく遊びました。

私達が遊んでゐる時に體力殊に敏捷といふ點に於て同年輩の他の子供に及ばないために屢々侮慢を受けるのが私に取つては非常に恥しくありました。而して私のすべての氣力も敢爲も私の友達を持つてゐた強壯な動きなき力と目的に對する確固たる自由とを得ることは出來ませんでした。

幸福なる人々よ、彼等は彼等の若々しい少年の力を不斷の演習の中に成人ひととなつて來たのであります。

學友が彼等の遊戯に私を到頭仲間入りさせてくれる様になつた時、私は自身を非常に好運であると感じました。

けれども練習により意志の不斷の努力により生の自然の進路により私が完成した所の體力に關する事はすべて友達の緊制されない若々しい力に較べると生理的に劣つてゐるといふことを常に私は自ら感じました。

以前の教育に依つて私が失つて來たものゝことは暫時置いて、私の新しい生活は外部的の制限によつて剛健になり自由になりました。而して私は機會を善用したものであると人々が申します。

世界は私の掴み放策に私の前に開けました。それは實際以前の生活が束縛され拘束されてゐたと同じ程度に於て私の現在の生活が自由であり無干

渉であつたためでありませう。

それは兎も角私の少年期の友達は今時の數個の出來事を私に思ひ起させます。その出來事は私の善い心を我儘な不羈の域にまで誘つたことを思ひます。勿論私の品行は同年輩の私の友達から較べると遙かに靜肅ではありましたがれども。

これまで黙つて行つて來た自然との交誼は今では以前よりも自由になり旺んになつて來ました。而して同時に叔父の家には平和と靜謐な默想とが充ちて居りましたので私が成長するに従ひ私の性格の其方面を發達させることも亦出來ました。斯くて總ての方面に於て私の生活は圓滑に平衡して行きました。

十七、有益なりし宗教科

等しく教育の中心たりし二つの場所に於て私は非常に氣安く感じて居りました。うっかりしてゐるよりも尙氣安く常々思つて居りました——それは教會と學校とであります。學校では私は殊に宗

教教育の時間を好みました。

叔父の説教は叔父の人柄及び生活に丁度ふさはしいものでありました、叔父の説教は穩健で心よく愛寵的親切に充ち満ちて居りました。私は叔父の説教をよく理解することが出来ました、而して月曜日に學校で繰返す時に私はその説教の大部分を話すことが出来ました。けれども私達の學校の先生の宗教教育は最もよく私の要求に應じました自分で種々解釋した事柄は先生によつてもつと明瞭にされ又先生によつて確證を得ました。

後年私が大人になつて叔父にこの先生の教授の卓れてゐたことに就て話しますと、叔父も先生の教授は全く大層善かつたが、話された相手に取つては餘り哲學的で深奥すぎたと言ひました。而して叔父は尙言葉を續けて、「お前は既にお前の阿父さんから非常に善い教育を受けてゐたからお前には丁度よかつたかも知れないと言ひました。

それはさうとして置いて、この教授は私を鼓舞し元氣附け暖めました。——加之、殊にそれがエ

スの生涯、事業、人格に觸れた時は、それは私の身内に燃えて私の心は遂に完く熔かされました。

この時に私は涙に咽び、而してエスと同じ様な生活を未來に於て送りたいといふ願望が判然として來て、私の靈をすつかり充たして了ふのでありました。

其當時起つた所の私の若々しい精神の亢奮の話を今になつて聞く時、私はこの事が淺學な觀察者をして宗教の訓誡や教示は私の心の上をカスリ過ぎたゞけでその痕を留めなかつたといふ誤つた考を懷かせたに過ひないと思はない譯には行きません。而して斯る觀察者が如何して私の内的生活の眞態を判斷することが出来ませう。

十八、他の學科

スタツドイルムの學校で最もよく教へられた課目は讀み方、書き方、算術及び宗教でありました、羅旬語は甚だ拙く教へられました、そして一層拙く學ばれました。

此校でも他の同程度の學校と同じく教授法は第

一義の説明を全然缺いて居りました。斯る教授法では學ぶ者に裨益する所が無いと知つたので私は羅句語の爲めに時間を費すことをしませんでした。

算術は私の最も好きな學科でありました。而して私は又この學科の個人教授を受けて居りましたので、私の進歩は非常に急速でありました。そして先生の學識は却々侮るべからざるものでありましたが、理論及び演算に於て二つながら私は先生と同じになつて了ひました。けれども二十三才の時始めてイエルドンへ行つて學生に提出された問題を解くことが出来なかつた時は私は甚麼に驚いたでありませう。それが私をしてベスタロッターの教授法に心酔せしめ、而して彼の組織によつて再び算術を習ひ返さうと私に決心させた經驗の一つであります。併し後には算術以外種々に就いて學ぶ所が多かつたのであります。

地文學に於ては覺える事柄を鸚鵡のやうに幾度も繰返しました。幾度も口でいひましたが何も知りませんでした。何故ならば私達は地圖上の彩

られた小さな點や線を正しく名指すことは出来ましたけれども、この學科の授業は私達の實生活に何等の關係もありませんでした。又それは私達のために何等の實在をも持つて居りませんでした。

私はこの學科も亦個人教授を受けて居りました。私の先生は私と共にもつと研究したいと望みましたが、先生は私を英國へ連れて行きました。私はこの國と私が住つてゐた所及び國との間に何等の關係をも見出すことが出来ませんでした。それ故にこの學科にも亦私は極く尠^{すく}しか止まつて居りませんでした。

獨逸語の實際的敎示に關しては何も話されませんでした。けれども私達は手紙の書き方と綴り字に於て敎示を受けました。私は綴り字の授業が何の學科と關係してゐるか知りませんが、しかしそれは何の學科にも關係してゐないと思ひます。それは空中に彷徨して居りました。

私はその他に尙唱歌とピアノを習ひましたが成功しませんでした。私は後章に至つてこれを記しますから今はこれだけに止めて置きます。